

先輩にエール

サムライブルーの快勝に歓喜した。サッカー日本代表の伊藤洋輝、後藤啓介両選手＝浜松市出身＝が卒業した第一学院高の浜松キャンパス（浜松市中央区）で、在校生らがワールドカップ（W杯）北中米3大陸大会の日本－チュニジア戦を観戦した。世界最高峰の舞台に立った先輩に、熱っぽく声援を送った。

（染谷明良）＝〇面参照

ニッポン、ニッポン、ニッポン。日本のユニホームを集まり、手拍子とともに声を身にまとった在校生や卒業 合わせる。前半、上田綺世選



日本代表に熱いエールを送る在校生ら＝21日午後、浜松市中央区で

第一学院高・浜松 チュニジア戦 燃えた

手が豪快なミドルシュートを決めて日本が2－0とする。椅子から跳び上がり、「うおー」と喜びを爆発させた。

伊藤選手はオランダと対戦した前の試合に続き、最終ラインでフル出場。相手からボールを奪った際に、在校生らは「いい守備」とたたえた。

後半、日本が勝利に大きく近づくと3点を挙げると、どこからともなく「そろそろ啓介出るんじゃない？」と期待交じりの声上がる。後半39分、その瞬間がやってきた。

上田選手と交代で後藤選手が初めてW杯のピッチに。ゴールには迫れなかったが、最前線で相手に圧力をかけた。「啓介、頑張れー」とエールが飛んだ。

両選手はJリーグのジュビロ磐田でのプロデビューを機に、通信制の同校に3年次に編入、卒業した。その後、選手として着実に成長を遂げ、欧州のクラブチームで研さんし、今大会にたどりついた。

2年の山口蓮さん（17）は「卒業生に代表選手が2人もいることが誇らしい。次のスウェーデン戦でも活躍して、勝ってほしい」と話した。

教諭の井町菜月さんは、後藤選手が日本でプレーしていた時期に「ゴール見てくれましたか」と、学校で気さくに話しかけてくれたことが記憶に残る。「目標は日本代表になることではなく、W杯優勝だった。ゴールを見たい」と期待した。